

雑木林ファンクラブ通信

住所: 〒 247-0013 横浜市区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Tel:045-894-7474

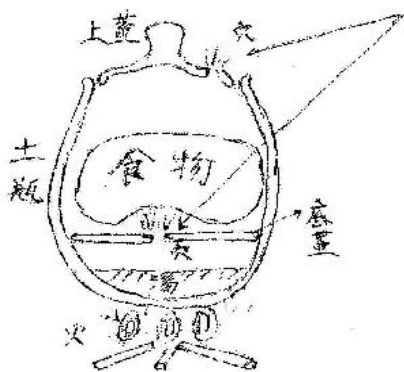
端午の節句 柏餅

柏餅 老いに甘ゆる これ勿れ (遠藤梧逸作)

スプリングフェアの打上げ時、毎年Kさんの奥様より差し入れのある柏餅、おいしく頂いております。ありがとうございます。柏餅と言えば、粳(うるち)米を粉にして練り皮を作って中に小豆餡又は味噌餡を入れ、柏の葉で包んで蒸した物を一般に柏餅と呼んでいる。しかしある本を読んでいたらびっくりした。柏餅と言っても包んである葉っぱは全国でいろいろな葉っぱが使われており、四国松山地方ではサルトリイバラの葉、他ではナラガシワ、ホウの木の葉、オオタニワタリの葉だったりして何も柏の葉で包んである物ばかりが柏餅でない事が分かり、それならばカシワとは何ぞや調べてみると、中国ではカシワの木といえば日本名シダレイトスギと言ひ、葉の様子からすれば檜等に近い針葉樹であり、日本の柏の木とは全然関係のない樹木であることが分かった。では何故これがカシワかと言うと謎解きのようである。

古来、中国でも日本でも食事の器や包み物として植物の葉がいろいろ使われてきた。(おむすびを包む時使う葉蘭、竹の皮、ZFCのお祝いの席などで赤飯には青木の葉、食べ物やお菓子では朴の葉でくるんだ朴葉寿司、笹の葉でくるんだ笹団子、鱒寿司、桜の葉の桜餅、椿の葉の椿餅等全国各地で様々な使われ方をしている。)本来植物にはそれぞれ独特な芳香と殺菌作用を持ち自分の身や周囲の浄化に努めている。特に人にとって有用な植物は古くから使われていた。檜さわら等は生魚を運搬する時に箱の下に敷いて、長時間鮮度と腐敗を予防していた。このように植物を有用に利用することは太古の昔から中国では行われていた。本題に戻すと、中国のカシワは日本名シダレイトスギ即ちイブキ(家の囲いや街路樹庭園に多く植えられている)であり、食物を蒸す時、底蓋、上蓋の穴の部分にカシワの葉を詰め底から蒸気を通し、上蓋からの蒸気の逃がしを適度に使い、圧力調整にうまく使われていた事が分かった。この事実よりカシワとは炊事用、調理用、食事関係の葉っぱの総てであり、語源は炊ぐ葉(かしぐは)からカシワになったのではないかと書いてあった。

端午の節句に食べられていた物は元々粽(チマキ)で柏餅に変わったのは江戸中期頃と言う。なぜ柏の葉が使われるかと言うと、餅を包むのに大きくて便利だったこともあるが、柏の葉は新葉が出て大きく開くまで旧葉(表面上は冬枯れているように見えるが葉の元はしっかり枝についている)は残っており「代々受け継がれる」という諺で縁起がよいことから使われたと言われている。柏は団栗の仲間であり、栗やマテバ椎すだ椎と同じである。実は渋く、直ぐには食べられないが、薄皮をむきあく抜きをすれば食べられる。



この部分に中国名カシワが使われた
日本名ではシダレ・イトスギ、別名イブキ(伊吹き)

用途: 日本のせいろう、又は家庭用蒸し器と同じ

原理: 底蓋、上蓋には穴があり、底蓋穴より上に蒸気
を上げ上蓋の穴で内部圧力を調整していたと思われる。
伊吹は檜科に属し、抗菌、芳香を発生し食物を腐
敗より守る役目がある。

1. 活動報告

- ① 3月 29日 (土) 晴 35名 シイタケ植菌、 SF 準備、 正午より観桜会
- ② 4月 5日 (土) 晴 27名 SF 準備、倒木枝処理 (池の上)
- ③ 4月 6日(日)晴 7名 友の会総会出席(江崎、佐野、片岡) SF 準備
- ④ 4月 12日 (土) 晴 33名 SF 準備、竹林整備
- ⑤ 4月 19日 (土) 曇晴 36名 SF 参加(横浜公園)
- ⑥ 4月 20日 (日) 曇晴 23名 SF 参加(横浜公園)
- ⑦ 4月 26日 (土) 曇 19名 檜材皮むき、竹林整備

他に、各水曜日に自主活動として 10名前後が SF 準備の作業を行った。



花駕籠は小さな子供さん達に大人気。順番を待つ長い列ができました。
アルプホルンも子供たちを引きつけましたが、大人からは「このホルンって高いんでしょう？どの位するんですか」「手作りです。円海山の木で作りました」とのやり取りもありました。



大鋸に振回されながらも一緒に最後まで頑張った男の子。外人さん親子とはさすがに横浜公園。

2. 運営会報告(4月 26日 (土) 1300 ~)

- ① 5月作業予定の打合せ調整
- ② Sf報告

参加者: 4/18 36名、4/19 23名。

直接経費を差引いて約 8万円の活動資金を獲得。

その他懸案作業の打合せ確認

- ・名瀬北村農園の倒木処理…宮田さんが先方との打合せ実施
- ・クヌギ林の選木マーキング作業
- ・トウネズミモチの除伐作業

- ・竹炭焼き…炭材準備後、適時実施。本窯で 1 日で焼き上げる
 - ・長光寺の竹林整備（間伐）…時期を含め片岡さんが先方と打合せる
 - ・実生の桜・コナラ苗の育成
 - ・9号緑地間伐の中期（3～5年）計画作成と今年度の計画書提出
利用する材のみ伐るのか、整備を優先するか意見統一が必要
- ③ センターのレンジャー交代甲把さんが3月末に退職、宮武正則さんがアシスタントレンジャーとして着任、挨拶あり。ZFCは渡辺さんと宮武さんが担当します。

3. 5月の活動予定

- ① 5月 3日（土）草刈（クヌギ林）、炭材作り
- ② 5月 10日（土）草刈（さくら林）
- ③ 5月 17日（土）しいたけホダ木設置場所作り、午後・運営会（ZFC総会）
- ④ 5月 24日（土）下草刈り（池の上）
- ⑤ 5月 31日（土）製材

他に、前記の懸案事項を適時組み込む。

なお、毎水曜日は自主活動

但し、5月 7日（水）はセンター休みにつき、活動できません。

4. その他

- ① ボランティア事故共済加入者証の件

26日の活動者にはお渡ししましたが、それ以外の方には加入者証を同封します。

なお、期限までの友の会会費振込みに遅れた方には友、の会事務局での手続き未済のためか、ZFCに届いておりません。友の会年会費（2000円）の払込みを忘れた方は至急振込んでくださるようお願いします。万一事故の場合の対処が出来ません。

- ② ZFC年会費（1500円）

近々、森へ来られそうにない方は、80円乃至90円に10円切手を組み合わせ、1500円相当額を郵便にてセンター気付ZFC宛お送りください。

- ③ スプリングフェア

林さんにレポートしていただきました。次ページ『スプリングフェア2008を振り返る』をご覧ください。

以上

スプリングフェア2008を振り返る

4月19日、心配された雨も上がり平成 20 年のスプリングフェアが開幕した。午前 10 時のオープンに先立ち設営準備のため 8 時前には会場の横浜公園に集合した。だが、我々の 1 年間の労作を積んだトラックは、8時を過ぎないと入場できないため、役人の融通のなさを嘆いたり空を見上げて天気回復を願ったりして時間を潰した。その間に他の出展者と場所取りの打合せがあり、ZFCは木作業に都合の良い一番端の場所を譲ってもらった。出展場所が確定し、トラックも到着して早速荷物の積み下ろしと会場設営作業に取り掛かり、出席者が 36 名と多かったので作業も捗り 9 時半には準備万端整った。

昨日の天気予報では午前中までは雨が残り昼からは曇とのことだったが、雨が上がり時折強い風で出展作品が倒れる程度で、昼から日が射すほどに天気が回復した。ZFCのメンバーには晴れ男と晴れ女が揃っているのだろう。アルプスホルンやアコーディオンで客を呼び込もうとするも、午前中はパツとしない天気のため客の出足が悪く、特に親子連れの人が少なく花駕籠や竹馬、コースター造りを担当していたメンバーは手持ち無沙汰であった。しかし、陽が出ると共に子供連れの人達が増え始め、これらの出し物の回りには人が集まり活況を呈し始めた。

我々の手作りの作品は千円を越える品ほど売れ行きが伸び悩み、昨年の人気商品だった額縁は、手にとって欲しそうな顔はするものの財布の紐は硬かった。一方、犬の置物はすっかりZFCの顔になったようで、最も大きく最も重かった作品が一番早く買い手が着き、オープンした途端に「売約済み」の名札を張ることになった。また、小型犬の方が安価にもかかわらず売れ行きが悪く、大型犬の方から早くさばけた。消費者の心理はわからない。午後 4 時半に店じまいし午後 5 時 15 分から関内駅前の「素材屋」で初日の健闘を祝して軽く杯を挙げた。

二日目は 9 時半集合であったが、9 時 15 分にはすでに 10 名程度のメンバーが出て TENT を開け、木作業用のビニールシートを敷いたりして開店準備を進めた。その後次々とメンバーが加わり、最終的には 24 名になり定刻開始時刻の 10 時前に準備が整った。天気もよく朝から客足も好調で、開始時刻の 10 時前に客が並ぶ状態だった。今年もお客参加型のコースター作りや大鋸を使った丸太切り、花駕籠、竹馬、アルプスホルンを吹く催しは、子供ばかりでなく親も楽しむことができ客足が途絶えることがなかった。スプリングフェア終了時刻の午後 3 時半には出展作品もほぼ売り切れ今年も無事終了した。

林

